

令和4年12月12日 令和4年度学校だより NO.462 加古川市立平荘小学校

平荘町にある小学校

狂言発表会を行いました(NO.2)

12月7日(水)、6年生は、午前中に狂言発表会の最後の調整を行いました。

最後の調整を終えて、6年生は、山口先生に最後のご指導を いただきました。





今(午前中の練習)は、6年生の中だけで演 技が終わっています。もっとみんなを巻き込む とすると、どうしたらいいと思いますか?

のりのりがいいですね。リレー形式で次へつな いでいくので、つないでいく意識、バトンを受 け取った意識が今は欠けています。受け取る側 がクリアしてしまっています。受け継ぐ意識を もって演じましょう。

まだ足りません。演じ手の思いがこちら(観客) にやってきません。神殿、神様に聞こえるぐらいの パワーがほしいです。

演目の説明は、声が本当によく通っています。演 技する時よりも声がよく通っています。演技でも声 を届けましょう。

芝居には2種類あります。映像と舞台です。この つの芝居は全く違います。みなさんは、舞台で芝 居をします。観客に向かって演じます。(狂言は、 舞台上の芝居です)

舞台上で、二人でしゃべっているけれども、声は 観客に届けるようにします。観客を相手にします。

狂言が650年続いてきているのは、観ている人 を意識しているからだと思います。飽きることなく きています。

平荘小学校も20年以上狂言をやってきていま

今日は、幸いにも1・2年生から5年生までが観 に来てくれます。1・2年生におもしろいと思って もらったら、◎。6年生カッコイイと思われたら勝 ちです。

午後(発表会本番)は、楽しみましょう!アドバ

イスがほしい人は、午前中に!

みなさんは、そつなく上手です。しかし、それで終わってほしくありません。もっと1~5年生や地域の 人達を巻き込む力が必要です。そうしようと思ったら、力がうまれます。思うことが大事です。みんなを巻 き込むのだと!

≪『柿山伏』より≫

山伏と畑主の息がピッタリ!渋い柿を投げ捨てた山伏 とその柿が当たった畑主の阿吽の呼吸が最高でした。



畑主に、カラスや猿と言われて物まねをする 山伏です。観客を巻き込んで演技ができまし た。観客と演技者が一つになりました。 キャーツ、キャツ、キャツ、キャツ、キャー

クスクスクスクス (観客:笑)





≪猿唄≫



【平之荘神社 宮司様より】

22年間続いてきた平荘小学校の狂言は、すごいことです。平荘町と言えば狂言と知られています。 22年間活動されていることを誇りに思ってください。

【平荘狂言教室後援会 谷川会長より】 平荘町全体で応援するもの(平荘小学校の狂言) があることはうれしいです。後一年です。『両荘みらい学園』に向けてつないでいきたいです。



6年生は、11月に転出した友だちの心も一緒に猿唄をうたいました。26人の心を一つにして観客に声を届けました。



今年の6年生はすごくまじめで、言ったことをきちっとやりこなします。びっくりします。迂闊なことは言えません。子どもたちを裏切ることはできません。子どもたちは、稽古後、一週間経つと、上手くなってきています。今日よりも来週と、進歩しています。まじめで一生懸命です。 狂言はお笑い芸です。助けてくれたのは、1・2年生です。

リハーサルの時に、「お世話になりました」のことばより、君たち(6年生)が楽しんでいる姿、一生懸命頑張っている姿をみることが一番うれしいと話しました。

観客は助けてくれます。自分からアクションを起こしたから助けてくれました。自分の思いを相手にしっかりと伝えると、相手は助けてくれます。相手と向き合って自分の言葉を発すると、必ず相手に届きます。

主人・太郎冠者・次郎冠者・山伏・畑主と、ふだんの自分の性格と違うキャラクターだと思いますが、人間の気持ちの中に存在する気持ちです。いろんな性格をもっているのが人間であり、いろんなキャラクターを演じながら成長していってほしいです。自分はこうだと決めつけてはダメです。

そして、ことばは大切です。ことばは、物事を考える軸となります。新しい言葉を自分の中に取り込み成長していくのです。これからも、自分自身を磨いていってほしいです。